

7-2-3 調達計画・実施 (p506~511)

紹介者：福井

調達計画とは

- 開発するシステムに必要な製品やサービスの購入だけでなく、組織内部や外部によるシステム開発なども含む
- 開発システムの用途、規模、取組方針、前提や制約条件に応じた調達方法を考える必要がある

調達計画

- 調達計画の策定

- 調達対象， 調達の条件， 調達の要求事項などを定義する
- 要件定義を踏まえ調達方法を選択
 - ▶ 既存製品またはサービスの購入， 組織内部でのシステム開発， 外部委託でのシステム開発
 - ▶ 何を社内で実施し， 社外に何を委託するか決める内外作基準を作成する

- 調達の方法

- 企画競争， 一般競争入札， 総合価格落札方式

RFI・RFP

- 情報提供依頼書

- (RFI : Request For Information)

- システム化の目的や業務内容を示す
 - 調達にあたって、ベンダ企業に対してのRFPを作成するための情報を依頼するもの
 - ベンダ企業は、RFIに対して情報を提供する

- 提案依頼書

- (RFP : Request For Proposal)

- 調査対象システム，提案依頼事項，調達条件などを示す
 - ▶ システムの対象範囲やモデル，サービス要件，目標スケジュール，契約条件，ベンダの技術や実績要件などを含む
 - RFPを提示してベンダ企業に，提案書・見積書の提出を依頼する

提案書・見積書

- ベンダ企業では、提案依頼書を基にシステム構成、開発手法などを検討し、提案書や見積書を作成して発注元に提案する
- 見積もりを依頼するためにRFQ (Request For Quotation : 見積依頼書) を作成することもある

問題1

問題

ベンダに対する提案依頼書(RFP)の提示に当たって留意すべきことはどれか。

- ア 工程ごとの各種作業の完了時期は、ベンダに一任するよう提示する。
- イ 情報提供依頼書(RFI)を提示したすべてのベンダに提示する。
- ウ プログラム仕様書を提案依頼書に添付して、ベンダに提示する。
- エ 要件定義を機能要件、非機能要件にまとめて、ベンダに提示する。

(平成22年春 応用情報技術者試験 午前 問65)



過去問題をチェック

RFP、RFIなどの調達に関する文書の問題は、応用情報技術者試験の定番です。

[RFP, RFI]

- ・平成21年春 午前 問66
- ・平成21年秋 午前 問67
- ・平成22年春 午前 問65
- ・平成24年春 午前 問65
- ・平成24年秋 午前 問65
- ・平成25年春 午前 問66
- ・平成27年秋 午前 問65

午後でも以下の出題があります。RFPやRFIの位置付けを理解し、調達の流れをイメージしてみましょう。

[RFP作成]

- ・平成24年春 午後 問4

解答1

解説

RFPには、要件定義で定義した要件を記述します。要件定義では機能要件、非機能要件の両方を定義するので、それはRFPに記述されます。したがって、エが正解です。

ア 完了時期などのスケジュールは、RFPに含まれます。

イ RFIを提示したメーカーのうち、得られた情報で対象外と判断されたベンダにはRFPを提示しないこともあります。

ウ プログラム仕様書は開発プロセスで作成される資料なので、ここでは添付しません。

《解答》エ

調達選定

- 調達先の選定にあたって、提案評価基準や要求事項適合度の重み付けを行う選定手順を確立する必要がある
- 総合的に評価する必要がある
 - コストや工期
 - **法令厳守（コンプライアンス）や内部統制**
- **CSR調達**
 - CSRを意識した調達
 - **CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会責任)**
 - ▶ 企業が利益を追求し続けるだけでなく、社会へ与える影響に責任を持ち、利害関係者からの要求に対して適切な意思決定をすること
- **グリーン調達**
 - 環境への負担の少ないものから優先的に選択する

ファブレス

- **ファブレス** : ファブ（工場 : fabrication facility）を持たない会社（工場を持たずに製造業を行う会社）
 - 製品の企画や設計だけを行い，製造は自社工場で行わず**EMS**などを行う企業に委託する
 - ▶ EMS (electronics manufacturing service)
電子機器の受託生産サービス
 - **OEM**での供給を受ける形で，自社ブランドとして販売する
 - ▶ OEM : (original equipment manufacturer)
相手先ブランド名製造

問題2

問題

半導体ファブレス企業の説明として、適切なものはどれか。

- ア 委託者の依頼を受けて、自社工場で半導体製造だけを行う。
- イ 自社で設計し、自社工場で生産した製品を相手先ブランドで納入する。
- ウ 自社内で回路設計から製造まで全ての設備をもち、自社ブランド製品を販売する。
- エ 製品の企画、設計及び開発は行うが、半導体製造の工場は所有しない。

(平成24年秋 応用情報技術者試験 午前 問66)

解答2

解説

半導体ファブレス企業では、工場を所有せず、企画、設計及び開発のみを行うので、エが正解です。

アはEMS、イはOEMの説明です。ウのような形態はIDM (Integrated Device Manufacturer：垂直統合型デバイスメーカー) といい、インテルがその代表例です。

《 解答 》 エ

調達リスク分析

- リスクを組織的に管理（マネジメント）し，損失などの回避または低減をはかるプロセス
 - 内部統制，法令厳守，CSR調達，グリーン調達などの観点による**リスク管理**が必要
 - ▶ 信用リスク，事務リスク，風評リスクなど

契約集締結

- 選定したベンダ企業と契約についての交渉を行う
 - 納入システム，費用，納入時期，発注元とベンダ企業との役割分担などを確認し，契約を締結する
- 情報システムの取引において業務を委託するときに集結する契約は2種類
 - **請負契約**
 - ▶ 頼んだ仕事を**完成させる責任**がベンダ側にある
 - **準委任契約**
 - ▶ **完成責任は発注側**にある，ベンダ企業は**業務実施**が求められる

契約締結

- 労働力を提供してもらうときに締結する契約は2種類
 - **派遣契約**
 - ▶ 指揮命令は発注者側
 - ▶ 労働条件（残業するかなど）は受注者側（派遣会社など）が決める
 - **出向契約**
 - ▶ 指揮命令は発注者側
 - ▶ 労働条件（残業するかなど）は発注者側が決める

問題3

問題

情報システム開発において適用される契約形態のうち、準委任契約について説明したものはどれか。

- ア 業務分析やIT戦略のコンサルティングなど、作業や事務の遂行を約束する契約である。仕事の完成は約束されないが、委託元の求めに応じて報告の義務がある。
- イ ハードウェアやソフトウェアパッケージを貸主から借り受け、一定期間にわたって使用することに対する費用の支払を定めた契約である。
- ウ 派遣元が雇用する社員を派遣先に派遣し、派遣先の上司の指揮命令や時間管理の下に派遣された社員がシステムの開発や運用に従事する契約である。
- エ プログラムの制作など、仕様書などに従って定められた仕事の完成を約束する契約である。仕事の進め方は受託側の自由裁量が認められている。

(平成25年秋 応用情報技術者試験 午前 問80)

解答3

解説

準委任契約では、仕事の完成は約束されず、業務を実施して報告する義務があります。業務分析や要件定義、コンサルティングなどでよく行われる契約で、アが正解になります。

イはリース契約、ウは派遣契約、エは請負契約の説明です。

《解答》ア

さいごに

▶▶▶ 覚えよう！

- ☐ RFIで情報をもらって，RFPで提案書を提出する
- ☐ 完成させるのが請負契約，業務を行うのが準委任契約